



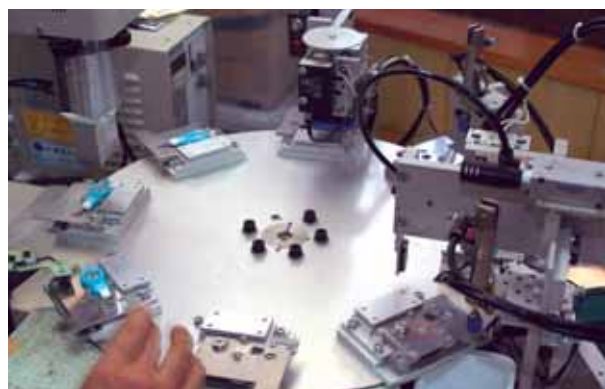
株式会社広栄社

国内で唯一の生産 「三角ようじ」

創業以来、一世紀近く、にわたり楊枝（ようじ）を作り続けている広栄社。大正末期にいち早くアメリカから製造機を導入し、材料も海外では常識であった白樺に切り替える等、国内における楊枝生産を牽引してきた。

3代目となる稲葉修社長は、「現在の人生は歯から」と言い切る。「現在、国内で「つまようじ」として使用されている円錐型の楊枝は、本来「カクテルピック」といい、食物を刺すための台所用用品。丸い形と折れにくい材質は、歯と歯茎を圧迫し、口内ケアには向かない」。しかし、国内では、大量生産がしやすいことから円錐型の楊枝が広まった。

現在、同社が国内で唯一生産し



ている「三角ようじ」は、先端が三角錐の形をしており、「これが本来の口内ケア用楊枝」と稲葉社長は語る。「歯と歯の間は円形ではなく三角形に近い。先端が三角錐であればフィットし、歯垢を落とすつ歯茎のマッサージもできる」からだ。

「口内ケアは健康を保つための第一歩。三角ようじを広めることで人々の健康を守りたい」、その一心で一本一本、楊枝を作り続けてきた。

「歯の美白スポンジ」 「マイクロの毛先が汚れを落とす」

同社では、長年の楊枝製造で培った知識と技術を基に、歯間ブラシ、歯茎ブラシ、タンクリーナー、糸楊枝等、オーラルケア用品の開発・製造にも力を入れている。

新商品は、0.2×0.5mmの毛先を持つスポンジで歯の表面に付着した汚れを落とす「歯の美白スポンジ」だ。国立大学の歯学部、商品デザイナー、そして口内ケア用品製造のプロである同社と各分野のエキスパートが集まり、初めて作ることができた商品。特に一時間に千個を生産する装置を自社開発できたことが、成功の大きな要因だった。

口腔衛生分野を極める

まずは、ベテランの工場長が製造装置を発案し、製作。それを若い技術者に「これを超える装置を作れ」と宿題を出す。あとは手を出さない。「自力で乗り越える、その行為自体が技術の伝承になっています。自分

で手を動かし、失敗し、現場で体を使うことがすべて。成功すれば自信にもなり、今後に受け渡すべき技術となっていくのです」、稲葉社長は目を細めながら、期待に込められた技術者たちの成功譚を話してくれた。今後の展開の中で一つはつきりしていることは、「決して口腔衛生分野から離れない」こと。「狭い分野だが、より深めていくことで、どこにも負けない会社となれる。そうして『三角ようじ』を世に広めていきたい」、稲葉社長の使命感が途切れることはなさそうだ。

主な事業内容

三角楊枝、歯間ブラシ、歯間楊枝、タンクリーナー、歯茎ブラシ等、糸つき楊枝等、オーラルケア用品の開発・製造・販売等



稲葉 修 さん
代表取締役

Company Profile

株式会社広栄社

住所 / 〒586-0037
大阪府河内長野市上原町885

創業 / 大正6年1月

設立 / 昭和36年10月

資本金 / 1,000万円

従業員 / 20名（平成21年1月現在）

T E L / 0721-52-2901

F A X / 0721-54-1092

関西
19

<http://www.cleardent.co.jp/>